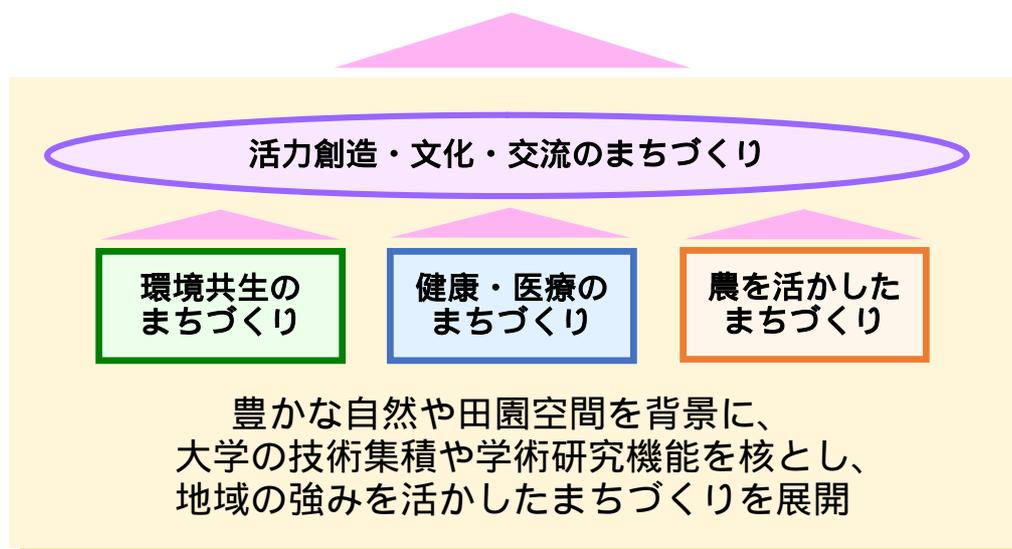


3 まちづくりのビジョン

3-1 地区のめざす姿

みらいを創造するキャンパスタウン

新しいライフスタイルを生みだし、持続的に発展しつづけるまち



豊かな自然や田園空間を背景に、慶應義塾大学SFCの持つ情報・環境・医療分野等の技術集積や学術研究機能を核にして、京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区の指定などの動きもふまえて、地区が持つ強みを活かし、大学の学生や教職員、研究者、産業界、市民、行政などまちづくりを担うさまざまな主体が連携して展開される環境共生や健康・医療、農業等に関する活動や取組によって、活力が創造されるまちをめざします。

また、こうした活動や取組や人々の交流によって、新しいライフスタイルを提案するまちを形成するとともに、時代の変化に呼応し持続的に発展するまちをめざします。

豊かな自然環境や環境との共生を実感できるまち（環境共生）

遠藤笹窪谷(谷戸)をはじめ里山や田園の美しい風景や豊かな自然を感じ、また、農業体験や観光農園、フットパスの散策などによって誰もが豊かな自然環境にふれあうことができるまちをめざします。

さらに、インフラや建築物には最新の環境技術が取り込まれ、まちなみの形成や眺望も豊かな自然環境を活かすことで、環境との共生を実感できるまちをめざします。

新しいライフスタイルにつながるキーワード

豊かな自然環境 感じる ふれあう 活用する 田園空間 ふるさと 癒し 体験する
原風景 農業 観光農園 富士山 景観 都市の自然化 最新の環境技術

元気に充実したときをすごすことのできるまち（健康・医療）

地域の資源を活かした「健康増進」の取組や病気を未然に防ぐ「未病」の概念を取り入れた医療などが展開され、加齢しても健康を維持し、元気に暮らせるまちをめざします。

また、学び、就労、ボランティア活動、NPO活動など様々な活動の場が用意されており、社会や人とのつながりを実感でき、さらに豊かな自然とのふれあい、趣味・特技・遊びなど、誰もが充実した時をすごせ、自分らしく、健康に生きられる魅力あるまちをめざします。

新しいライフスタイルにつながるキーワード

未病 医療 健康 安全・安心 健康寿命 長生き 交通利便性 歩く 車を使わない
交流する つながる 学ぶ 教える 趣味を極める 運動する 活動する 表現する
自己実現 好奇心 探求心 体験 いきがい 遊ぶ 憩う 癒し

身近に農を体感できるまち（農を活かす）

健康と文化の森地区の周辺地域で盛んな農業を背景として、この地域で採れる新鮮で安全な農産物等を購入でき、おいしく味わい、また、農業体験農園などで収穫等の農作業に参加することで、生活の中に農が取り入れられ、身近に農を感じられるまちをめざします。また、周辺地域の農業の発展にも寄与するまちをめざします。

新しいライフスタイルにつながるキーワード

農業 田園空間 風景 農畜産物 おいしい 食べる 味わう 観光農園 収穫 体験農園
クラインガルテン 学習 援農 都市生活 利便性 共存 両立

多様な人々の参加・交流により、活力が創造されるまち（活力創造・文化・交流）

慶應義塾大学SFCやその周辺地域において、地域の強みを活かした「環境共生」「健康・医療」「農を活かす」まちづくりの展開により、多世代交流、異文化、異業種交流等が活発で、新しい「もの」「技術」「文化」等が創出される活力のあるまちをめざします。

また、人々の多様化するニーズやライフスタイルに応える魅力的なコミュニティプログラム・ワークショップなどが開催されるとともに、芸術や趣味など自己表現の場が豊富に用意されており、地区の伝統的な祭事なども含めて、この地区に多様な人々が集まり活発に交流するまちをめざします。

新しいライフスタイルにつながるキーワード

多世代交流 異業種交流 国際交流 大学と高齢者 こどもと高齢者 まちづくり NPO
外国人 伝統 まつり 文化 芸術 劇場 イベント フォーラム シンポジウム
コミュニティプログラム ワークショップ ワーキングスペース 会議室 集まる場
人が集まる仕掛け コンベンションスペース 緑に囲まれたサロン

健康と文化の森地区やその周辺においては、次のような居住者や来訪者をまちの主役として想定します。

想定される居住者や来訪者

国内外で活躍する大学教員や研究者など、居住者と来訪者の中間に位置する人々もいることが想定され、さまざまな人々が多様な目的で訪れ・住むことにより、新しい交流が生まれてくることが期待されます。

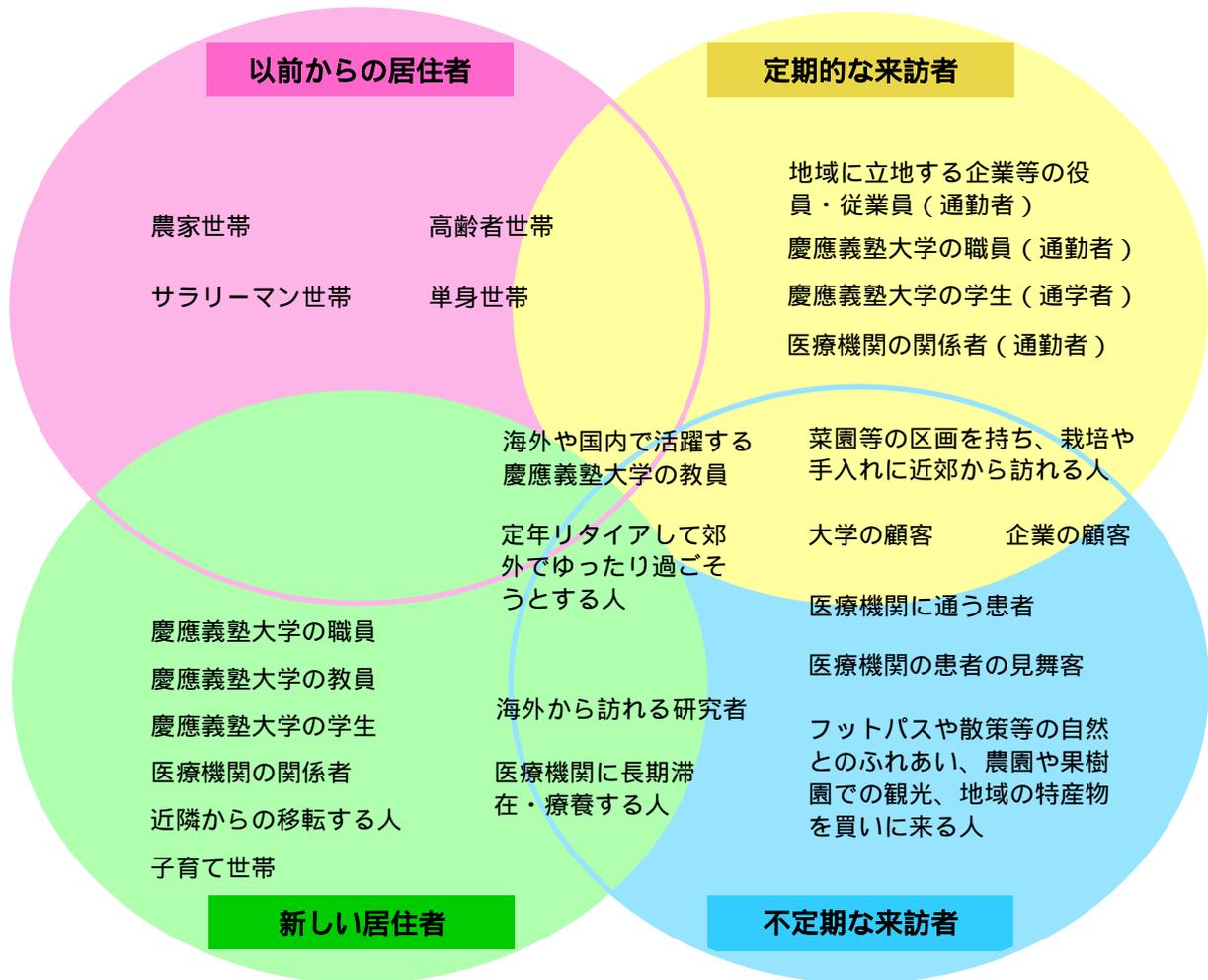


図 想定される居住者や来訪者

想定される主な居住者の生活像や来訪者の過ごし方（ライフスタイル）

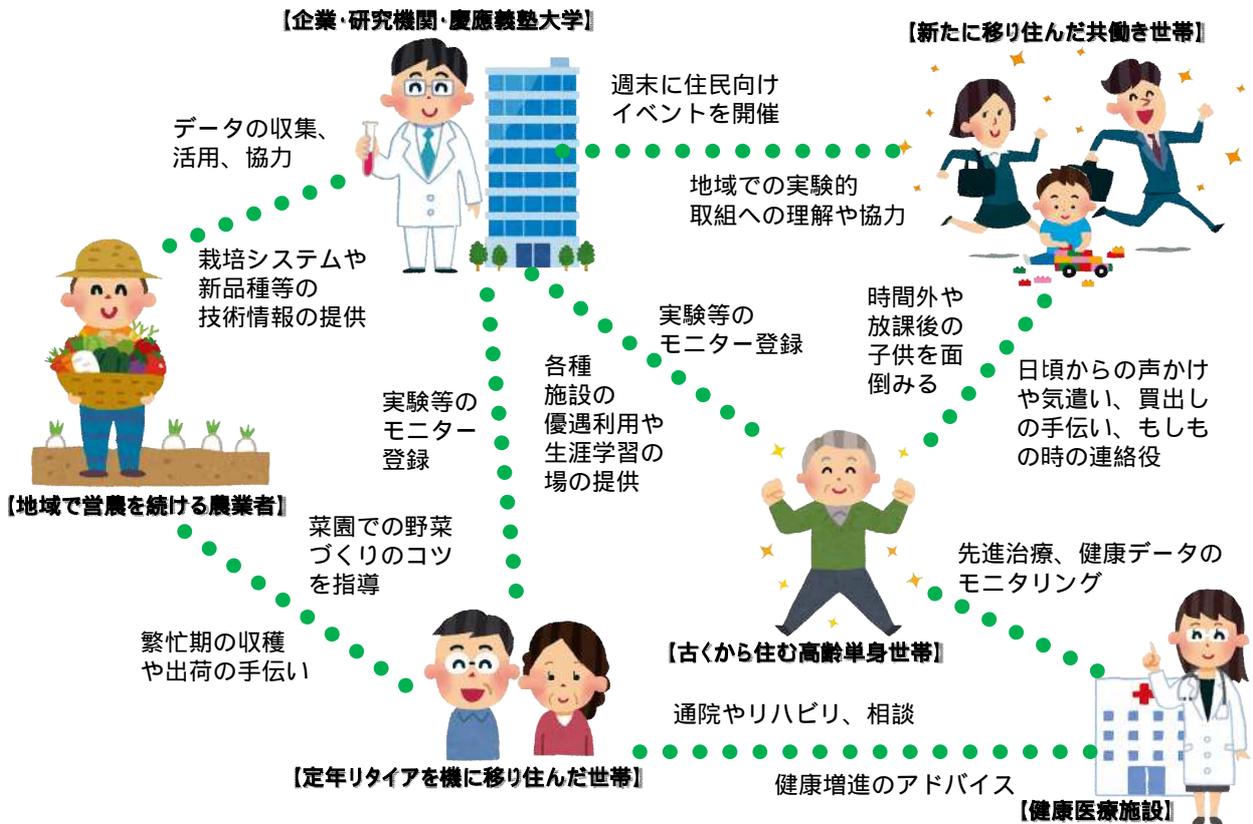


図 想定される居住者の生活像の例（結びつきや支え合いのイメージ）

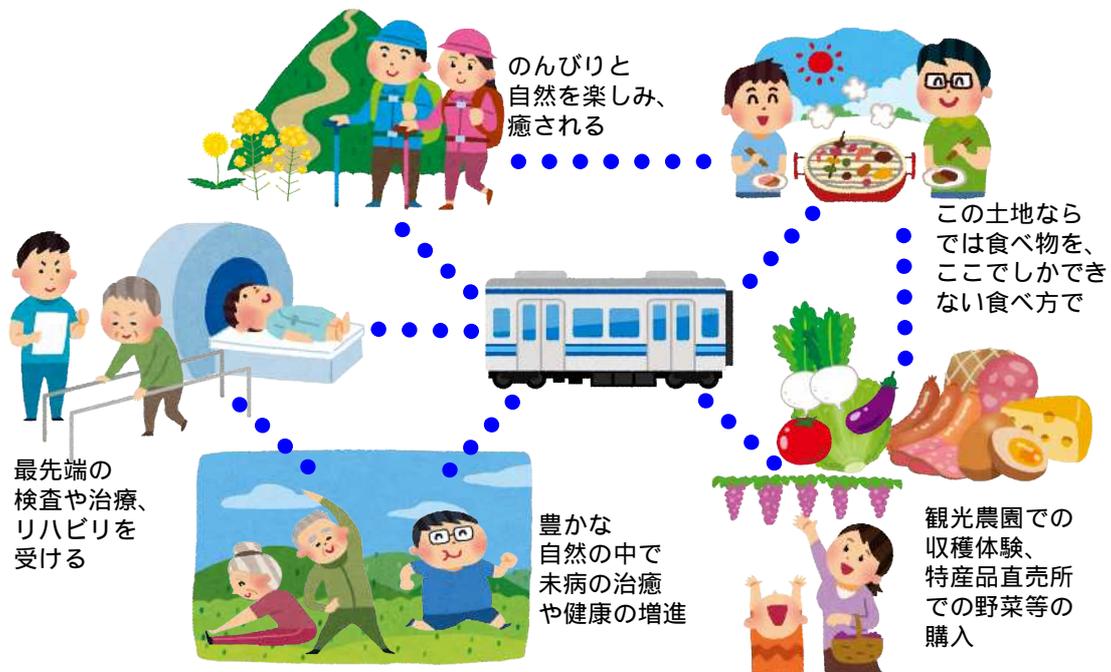


図 観光・保養・余暇目的の来訪者の過ごし方の例

3-2 まちづくりの方向性

地区のめざす姿を実現するため、慶應義塾大学 S F C の技術集積や学術教育機能を背景に、「環境共生」「健康・医療」「農を活かす」及び「活力創造・文化・交流」の4つのテーマ（視点）でまちづくりを展開します。

(1) 環境共生のまちづくり

健康と文化の森地区は、水と緑や田園空間等の優れた自然環境を有するだけでなく、環境に関連する先端的な研究に積極的に取り組んでいる慶應義塾大学 S F C が立地しているという優位性もあることから、自然との調和を図るとともに、これらの資源を有効に活用したまちづくりを進めることで、環境共生のモデルとなるまちをめざします。

- 自然と調和した都市景観の形成
- 自然環境を取り入れたまちづくりの実現
- 環境共生の仕組みの導入

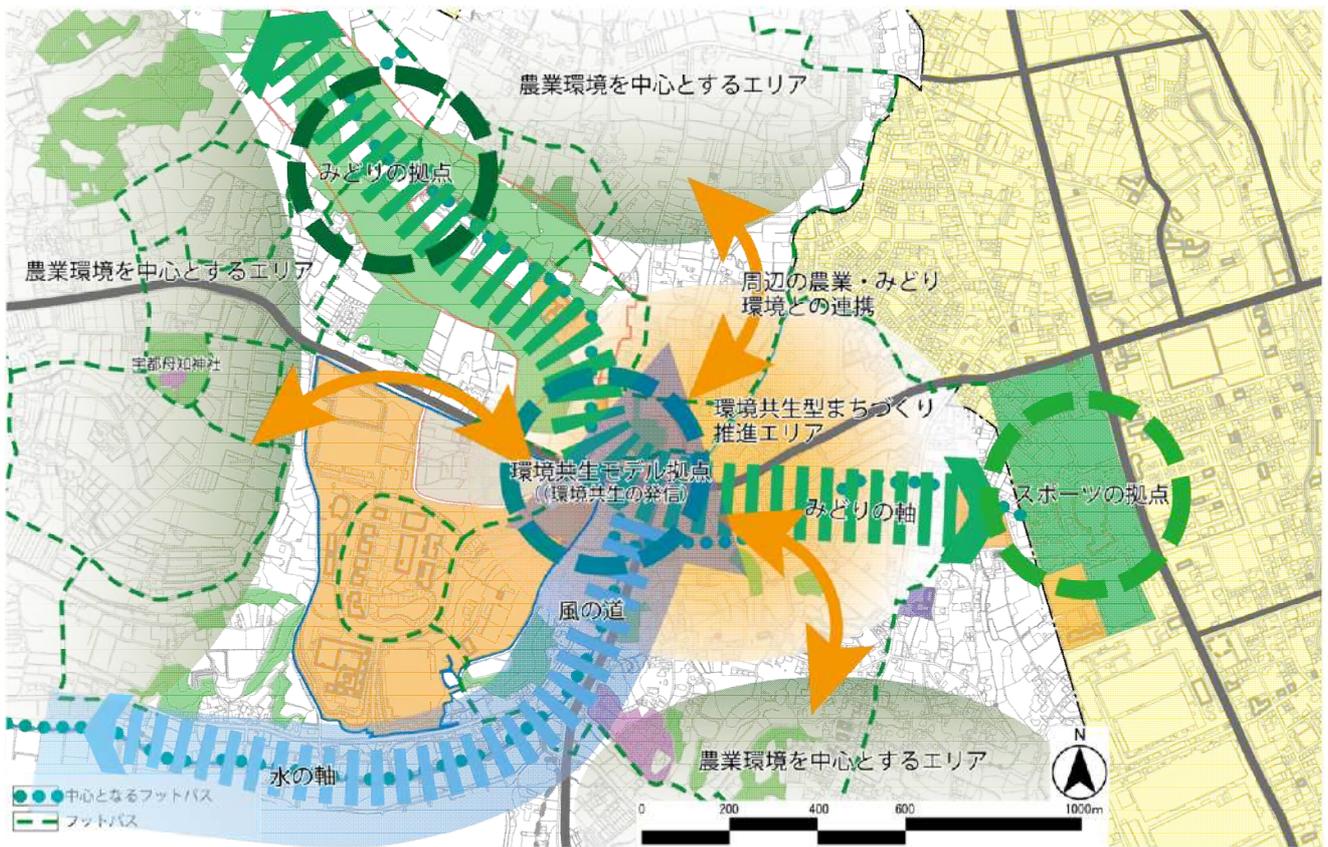


図 環境共生まちづくりの方向性

自然と調和した都市景観の形成

【考えられる取組】

駅周辺における街並み誘導

みどりがあふれる住宅地の整備

公園的な活用も兼ね備えた開放感のある企業・研究所の景観づくり



図 駅周辺における街並み誘導のイメージ



図 みどりがあふれる住宅地の形成イメージ



図 企業・研究所の景観づくりのイメージ

自然環境を取り入れたまちの実現

健康の森のみどりの環境をまちなかまでつなげるとともに、小出川などの水環境を積極的に活かして、水やみどりにふれあい、風を感じることができるまちをめざします。

【考えられる取組】

- 健康の森から秋葉台公園までつながるみどり軸の形成
- 小出川沿いの水の軸の形成
- 四季を感じる風の道づくり
- 既存緑地の保全・活用



図 みどりの軸の形成イメージ



図 水の軸の形成イメージ



図 既存緑地の保全・活用のイメージ

環境共生の仕組みの導入

環境共生の仕組みを取り入れ、二酸化炭素の排出が少なく、地球環境にやさしいまちの実現をめざします。

【考えられる取組】

- 自立型エネルギー供給システムの導入
- 環境にやさしい交通環境の実現
- 環境共生住宅の導入など、環境にやさしい街区形成
- 環境調和型 / 環境共生産業や関連企業の誘致や立地促進

自立型エネルギー供給システムの導入

平常時には高効率で災害時には自立したエネルギー供給システムの導入が考えられます。

<具体的な取組例>

- ・地域へのコジェネレーションシステムの導入
- ・慶應義塾大学未来創造塾と連携して街区でのAEMS（エリア・エネルギー・マネジメントシステム）の導入
- ・建築物が建ち上がってきた段階でのスマートグリッドの整備

先進事例：病院へのコジェネレーションの導入

地域の中核医療を担うD病院では、救急救命センターの指定を受け、2008年度より、コジェネレーションを導入し、建物を跨いだエネルギーの融通を行っております。

コジェネレーションには、2,000kw級のガスエンジンを2台導入し、発電効率41.6%、排熱回収効率38.6%（総合効率80.2%）を実現しております。その他の省エネ対策含め、全体で一次エネルギー消費を約14%削減しております。

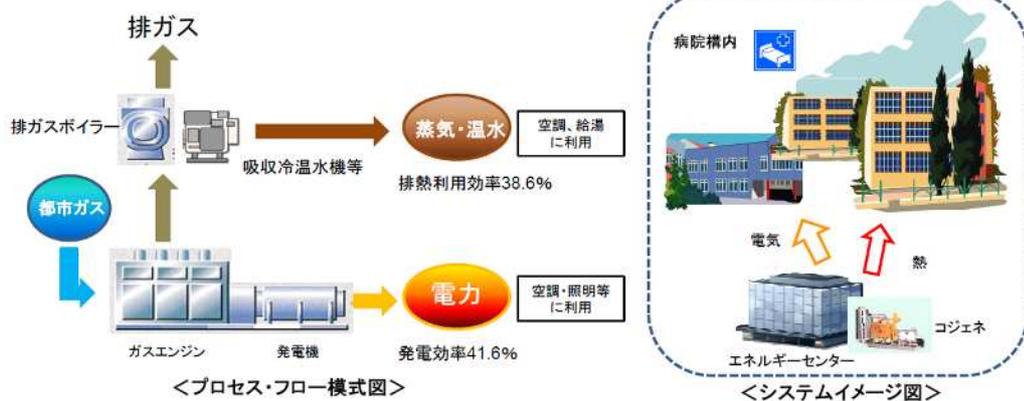


図 病院コジェネレーションのイメージ

出典：資源エネルギー庁資料

環境にやさしい交通環境の実現（スマートモビリティの導入検討）

いずみ野線B駅の設置を契機に、B駅からの移動手段について階層的なサービスレベルの設定やネットワークの再編を実施し、歩行者や自転車、公共交通を優先する環境にやさしい交通先進地区にすることが考えられます。

<具体的な取組例>

- ・街区内を安心・安全に移動できるバリアフリーな緑陰の歩行専用空間の整備（裏路地）
- ・健康の森や秋葉台公園など周辺の拠点施設・地区を結ぶ歩行者・自転車ネットワークの形成
- ・鉄道の延伸に伴いバス路線の再編を実施
- ・B駅を中心に、慶應義塾大学SFCや健康医療施設、福祉施設と周辺のコミュニティを回遊する超小型モビリティのシェアリングシステムを導入し、バスネットワークを補完
- ・慶應義塾大学SFCと協働でシェアリングシステムの設計

先進事例：スマートモビリティの導入（チョイモビヨコハマ）

観光・業務・生活等における低炭素な移動手段としての有用性やビジネスモデルの検討のため、横浜市と日産自動車㈱が実施主体となって、平成25年10月11日から平成26年9月30日にかけて、横浜都心エリアでスマートモビリティ導入の社会実験を行っております。

車両台数、貸渡返却箇所：約100台、約70箇所（約140台分）

運営方法：貸渡返却手続はスマートフォン等/ICカードを活用

利用料金：20円/分（課金によるビジネスモデル実証実験）

■概ねの中心エリア、予約・駐車イメージ



図 スマートモビリティの導入（チョイモビヨコハマ）のイメージ

出典：横浜市資料

環境共生住宅など、環境にやさしい街区形成（次世代型環境共生街区・住宅の検討）

街区全体を周辺の微気候に配慮したパッシブなデザインとし、環境共生住宅には太陽光発電（屋根貸し）やH E M S（ホームエネルギーマネジメントシステム）などの技術を導入した次世代型の環境共生街区を形成することが考えられます。

<具体的な取組例>

- ・ 地形や微気候をふまえたパッシブ型の街区の配置、デザイン
- ・ 植え込み等による緩やかな区切り、南側への落葉樹の配置、庇・緑のカーテン、冬の断熱性と夏の通気性を兼ね備えた次世代型環境共生住宅の研究及び導入
- ・ 太陽光発電の屋根貸しを想定した建物形状の検討(建築協定の制度、条件付き販売、貸し家)、買電（逆潮流）を考慮した電線容量の確保
- ・ H E M Sの導入によるエネルギー管理
- ・ 次世代型環境共生街区・住宅の検討
- ・ 太陽光発電屋根貸しのスキーム検討

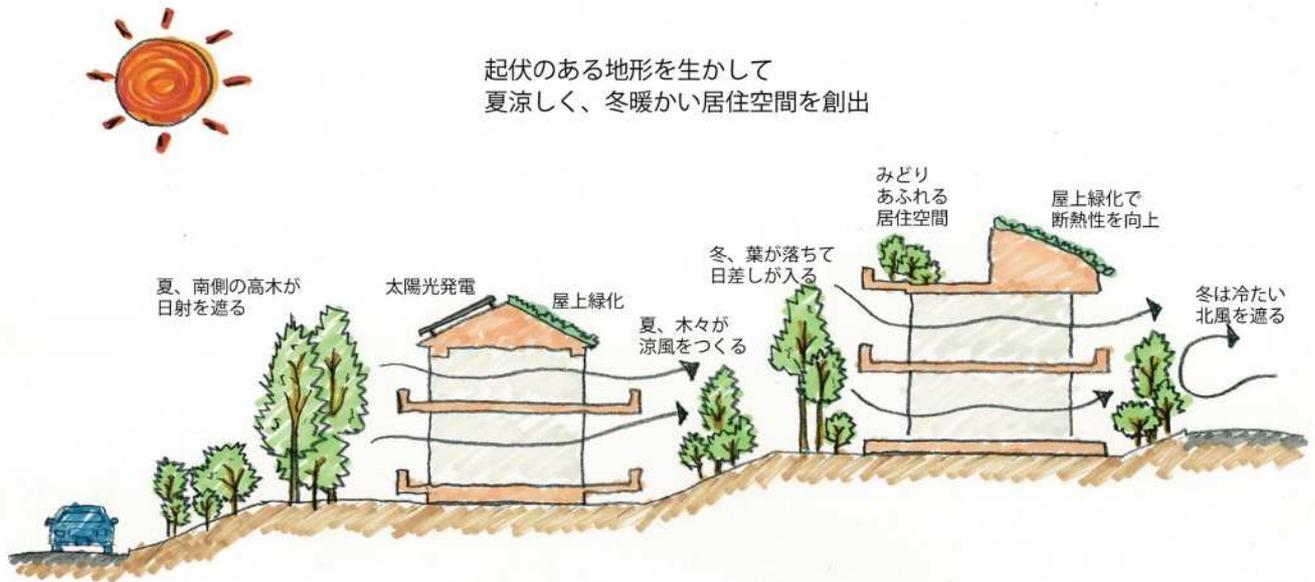


図 地形を活かした環境共生住宅地のイメージ

先進事例：慶應型共進化住宅

慶應義塾大学 S F C 研究所は、環境 - 文化再生デザイン・ラボを中心に、理工学部との連携による横断的な研究チームを立ち上げ、環境分野に注力する 20 社近い協力企業とコンソーシアムを結成して、慶應義塾大学 S F C 研究所が長年培ってきた高度な情報技術を応用し、質の高い暮らしを実現するための 2030 年型の住宅を提案。

- ・環境負荷の低減、健康維持・増進、快適で安全な社会生活の実現という 3 つの課題を高い次元で達成
- ・ライフスタイルと都市環境をインタラクティブに繋ぐ“共進化”住宅
- ・地球的な課題である環境問題の解決におけるアジア地域への貢献

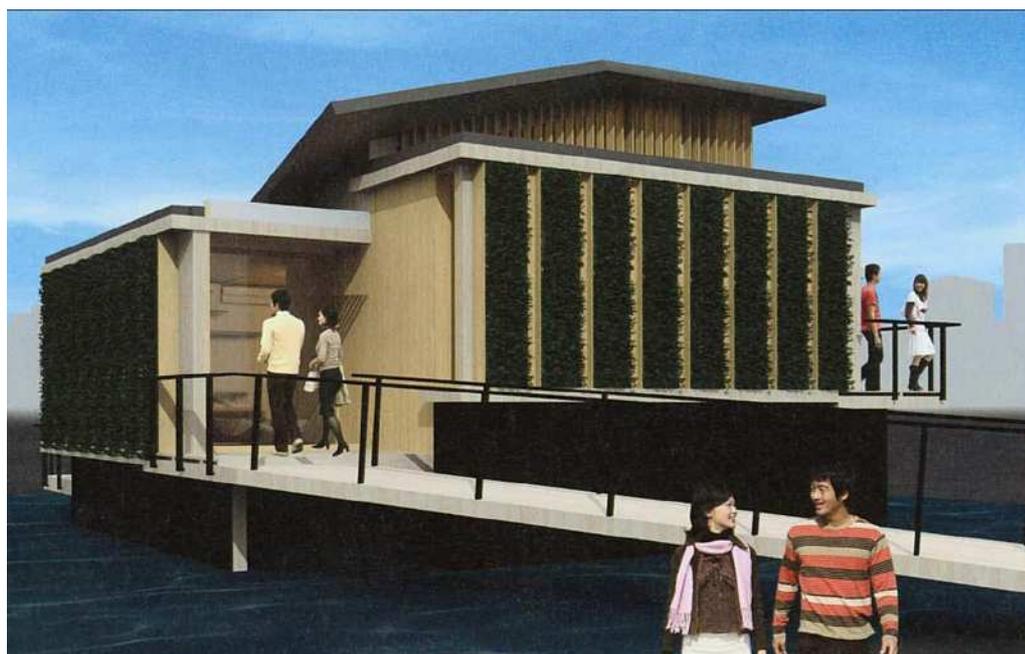


図 慶應共進化住宅のイメージ

出典：慶應義塾大学 S F C 資料

(2) 健康・医療のまちづくり

高齢になっても健康で元気に暮らせる状態を保つことは、個人にはもちろんのこと、社会にとっても医療費の抑制等のメリットがあることから、健康に過ごせるまちをめざすことはまちづくりにおける重要な課題と考えられます。

一方、健康と文化の森地区やその周辺には、健康増進の場として利活用可能な健康の森や豊かな自然環境を有しており、また、当該地区は、京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略特区やさがみロボット産業特区の指定も受けていることから、今後、健康・医療のまちづくりを展開することが可能な地区であると考えられます。

このような地区の強みを活かし、健康増進の取組や病気を未然に防ぐ「未病」の概念を取り入れた医療など、健康寿命を伸ばすためのさまざまな取組を展開し、誰もが健康で元気に暮らせる健康・医療のまちをめざします。

健康医療研究機能の誘導・充実にあわせた健康まちづくり
健康増進まちづくりの推進

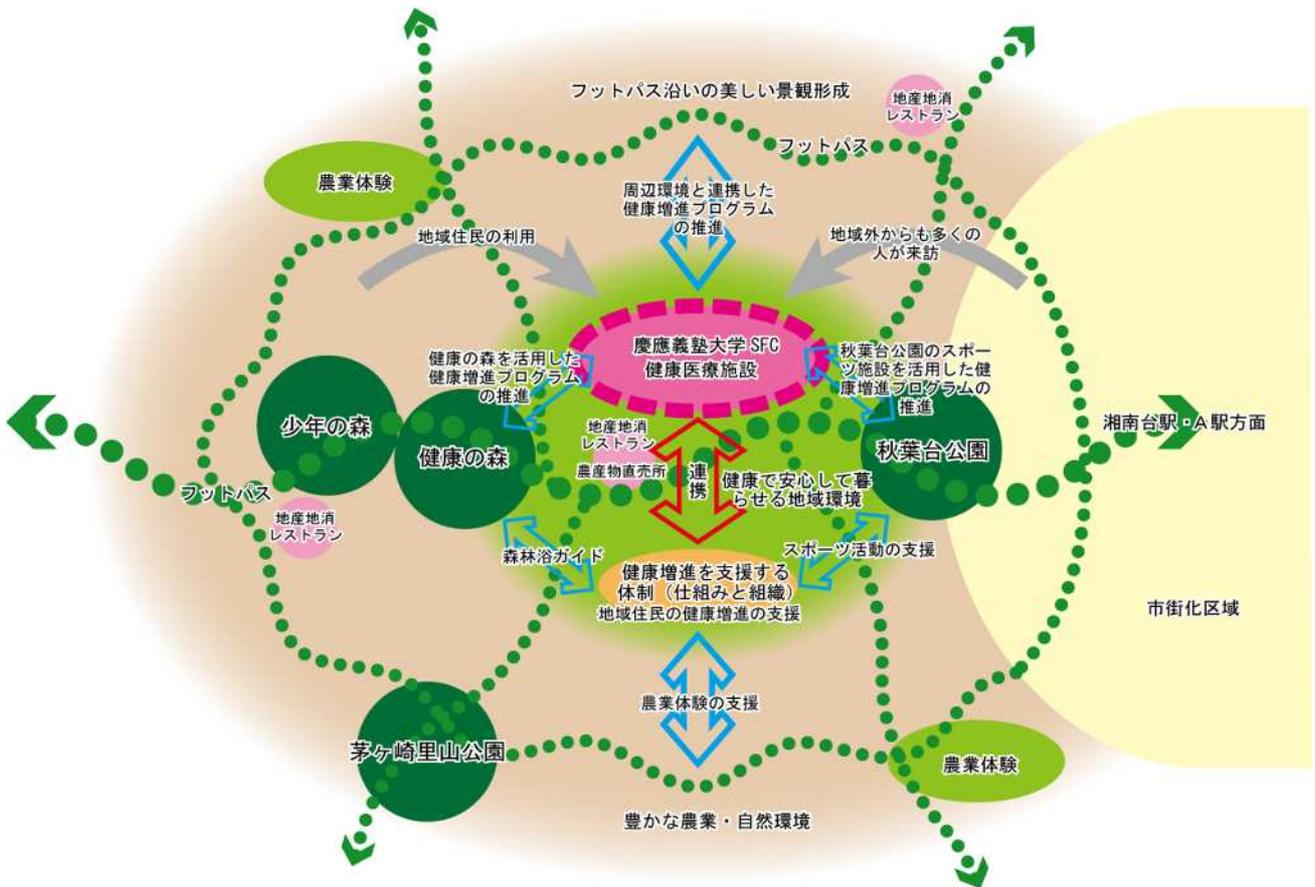


図 健康・医療まちづくりの方向性

健康医療研究機能の誘導・充実にあわせた健康まちづくり

健康医療施設の誘導・充実が進められることで、地域における病気予防への意識や、日常的な健康管理への関心を高めていくことが必要です。また、特区指定による実証実験の進展を、健康医療施設等で実践的に活用していくことによって、優れた医療が展開されることも期待されます。

これらのことにより、多くの人々が訪れ、健康になれるまちをめざします。

【考えられる取組】

健康医療研究機能の誘導・充実

保健・医療・福祉の連携

地域医療サービスの充実

災害時医療体制の強化

健康医療研究機能の誘導・充実

京浜臨海部ライフノベーション国際戦略特区やさがみロボット産業特区の指定等をふまえ、最先端の医療設備や機器等の実証実験を進め、その成果を健康医療施設等で実践投入することで、先進的なりハビリテーション医療を展開することが考えられます。

保健・医療・福祉の連携

さがみロボット産業特区では、介護・医療ロボット、高齢者等への生活支援ロボットの実証実験などの実施が想定されております。

こうした条件を活かしつつ、慶應義塾大学SFCとの連携を視野に入れて、保健・医療・福祉の総合的・一体的な提供を進めていくことが考えられます。

こうした取組を進めていくことで、地域包括支援センター、介護サービス事業者、地域団体、保健・医療・福祉関係NPO等の連携も進め、高度な地域包括ケアシステムの構築が期待されます。

地域医療サービスの充実

健康医療機能を誘導することで、医療サービスの充実をはかることができます。このことにより、高齢者をはじめとする地域住民に対して、安心して暮らせる環境の提供が可能になると考えられます。

災害時医療体制の強化

藤沢市北部における拠点的な病院として機能することで、災害時における医療救護体制の強化を図ることができ、安心して暮らせる地域環境の構築に寄与できると考えられます。

健康増進まちづくりの推進

「健康の森基本計画」において、提案されている健康増進プログラム（*）を積極的に推進します。

また、豊かな自然環境や農業環境等、周辺に広がる環境を活かして、地域の住民等が日常生活の中で、無理なく健康的な生活を送れる環境の形成をめざします。

* 健康増進プログラム

自らの健康を管理し、病気にならない身体をつくることによって、健康的な生活を送ることができるよう、健康管理、運動機能の向上、食生活など総合的な視点から健康力を計画的に高めていくためのプログラムです。その結果は、増大する医療費の適正化につながるものとして、現在では企業や健康保険組合が積極的に奨励しております。

【考えられる取組】

健康増進プログラムの推進

健康の森と秋葉台公園を核としたフットパス網の形成

周辺の農業環境を活かして地産地消など健康的な食文化を育成

健康増進を推進するための仕組みと体勢の構築

健康増進プログラムの推進

慶應義塾大学SFCが立地している優位性を活かして、健康の森等を健康増進の場として活用することを取り込んだ健康増進プログラムを開発し、地域住民等を対象に実践することが考えられます。

健康の森と秋葉台公園を核としたフットパス網の形成

健康の森における森林セラピーの推進や、健康の森から秋葉台公園、小出川、さらに茅ヶ崎里山公園など周辺地域との連携も含めたフットパス網を形成し、健康的で快適に歩ける地域環境を構築することが考えられます。



図 道路沿いの商業施設のイメージ

○健康増進を推進するための仕組みと体制の構築

慶應義塾大学SFCと連携して、住民や働く人を対象とする継続的な健康チェックやヘルスケアの仕組みを構築することが考えられます。

フットパスの散策や森林セラピーなど、屋外における健康活動を支援するガイドや地産地消を推進する農家と飲食店の連携、レシピ作成のためのコーディネーター、農業体験における支援員など、対象地区およびその周辺において、健康的な生活を送る支援をする人が連携した体制の構築も必要と考えられます。

(3) 農を活かしたまちづくり

健康と文化の森地区やその周辺の地域には、自然が多く残っており、また市内でも農業が盛んな地域でもあります。このため、良好な田園の風景や農業環境を残しつつ、生活や交通の利便性の向上との両立をめざし、まちが成熟するにつれて地域の農業も発展するように、周辺の優良な農地・農業環境も含めた広いエリアで連携して、農を活かしたまちをめざします。

- 農業と連携したまちづくりの推進
- 農業経営の強化
- 市民参加型の農の推進
- 地産地消の推進
- 農・商・工連携の推進

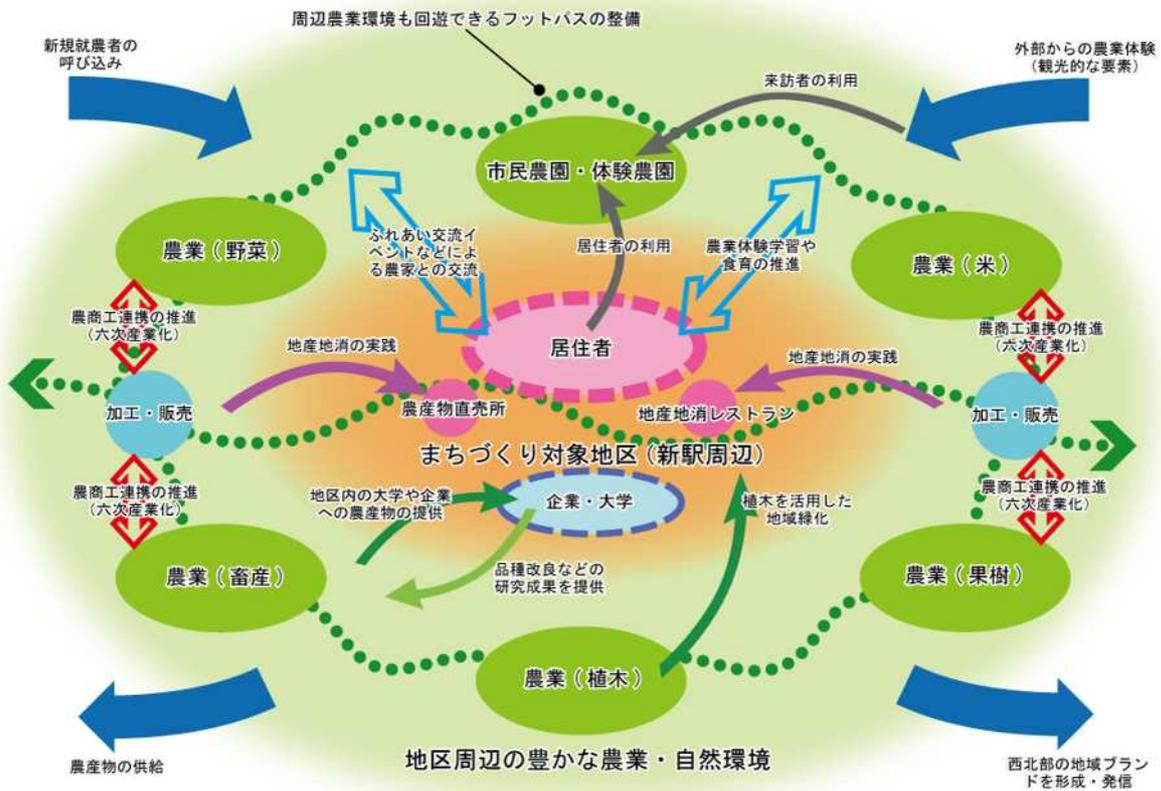


図 農を活かしたまちづくりの方向性

農業と連携したまちづくりの推進

農を活かしたまちづくりを進めるなかで、都市と農業が連携した新しいまちづくりをめざします。

そのために、西北部地域における特産品としてあげられる植木や花卉を活用した地域緑化の推進や、フットパスでまちづくり区域内外を結ぶなど、身近に農を感じられるまちをめざします。

また、地産地消レストランや農産物直売所の設置、大学や企業における地域農産物を活用したメニューの提供など、周辺農業の活性化をはかるための仕組みの構築もめざします。

【考えられる取組】

街路樹に地域の樹木を選定し植樹

周辺農業環境も回遊できるフットパスの整備

地産地消の実践の場として地産地消レストランや農産物直売所の設置

地区内の大学や企業への農産物の提供

農業経営の強化

現在の農業環境を基本として、いっそうの農業経営の強化を図ることも必要です。都市近郊農業としての特徴を活かして、野菜、果樹などを中心として農家の経営基盤を強化するため、農業後継者の確保や新規就農者の育成についても検討し、農地の維持等の可能性について検討を進めます。また、花卉、園芸、畜産などで大規模に展開している農家も見られることから、こうした農家に対する支援策なども検討します。

こうした取組を進めることにより、多品種にわたる生産を行う地域としての特性をいっそう充実し、足腰の強い農業地域として発展するまちをめざします。

【考えられる取組】

- 農用地区域の原則的な維持・保全と耕作放棄地等での耕作推進
- 大規模農家の育成支援
- 農業後継者、新規就農者の育成
- 流通・販路の拡大と効率化
- 援農ボランティアの育成
- 品種改良の支援

先進事例：農場・農産加工工房・ファクトリーファームの運営および農産物の通信販売
(農)伊賀の里モクモク手づくりファームでは農場運営、農産物加工、通信販売などを行っております。

○6次産業化を実現、食育や外食産業も展開

伊賀の活性化を目的に、養豚、豚肉加工から農業全般の事業、農業を学びながら余暇を楽しめる農業公園モクモクファームを運営。生産・加工・販売の6次産業化を図り、外食産業や食育にも領域を拡大。

○多くの観光客が農業公園(ファクトリーファーム)を来訪

敷地面積14haのモクモク手づくりファームには、食農を体験できる設備が5つ、レストラン、直売所、宿泊施設、貸し農園などが整備。年間の来場者は50万人。

○雇用の創出、農業の担い手育成、新規就農者の受入

7つの法人を運営し、正社員150人、パート150人、アルバイト400人を雇用。

○休耕地の有効活用、地域農業の活性化



図 貸農園(農学舎)の様子

出典：農畜産業振興機構資料、伊賀の里モクモク手づくりファームホームページ

市民参加型の農の推進

農業後継者の不足や農業従事者の高齢化といった、農業経営に関する問題への対応策として、市民参加型の農の推進が考えられます。これは、農家が所有している農地や遊休農地などを活用して、農家の指導のもと農作業や収穫を一般の人におこなってもらい、農地を保全し、その減少を食い止めることをめざすものです。

このような農への市民の参加は、一般市民が農業への関心と理解を深めることができるとともに、農家と地域住民との交流も期待されることから、市民参加型の農の確立をめざします。

【考えられる取組】

市民農園の推進

収穫祭、ふれあい交流イベントなどの実施

地域の小学校などの農業体験学習の推進

援農ボランティアの育成

地域の小学校や公共施設での西北部産農産物・食品の利用促進

事例：藤沢市少年の森での農業体験学習

「藤沢市少年の森」園内の水田で田植え、田の草刈り、稲刈り、脱穀、餅つきといった作業を通じて、お米のできるまでの過程を体験できます。また、近隣の農家の方の協力のもと、いも畑でのいも掘り大会も実施しております。



図 稲作体験学習の様子

出典：藤沢市みらい創造財団ホームページ

地産地消の推進

藤沢市では「藤沢市地産地消の推進に関する条例」に基づき、「藤沢市地産地消推進計画」を定めております。この計画に基づき、西北部地域において地産地消に寄与するまちをめざします。

【考えられる取組】

- 西北部産農産物・食品の普及啓発、情報提供
- 小売店、卸売業における西北部産の農産物・食品の流通促進
- 地域の小学校などの公共施設での西北部産農産物・食品の利用促進
- 飲食店、家庭等での西北部産農産物・食品の利用促進
- 生産者と消費者の交流促進
- 食育の推進

藤沢市地産地消推進計画

藤沢市では、平成 21 年度に「藤沢市地産地消の推進に関する条例」を制定し、平成 22 年度には「藤沢市地産地消推進計画」を策定。「湘南ふじさわ産」農水産物の市内流通の促進に取り組んでおり、湘南ふじさわ産利用推進店、市内直売所、わいわい市藤沢店などで、地元でとれた新鮮食材を使ったおいしい料理、新鮮な農産物を市民に提供しております。

平成 25 年 1 月現在 104 店舗の飲食店等が「湘南ふじさわ産利用推進店」として認定しております。また、直売所は市内 23 ヶ所で営業しております。

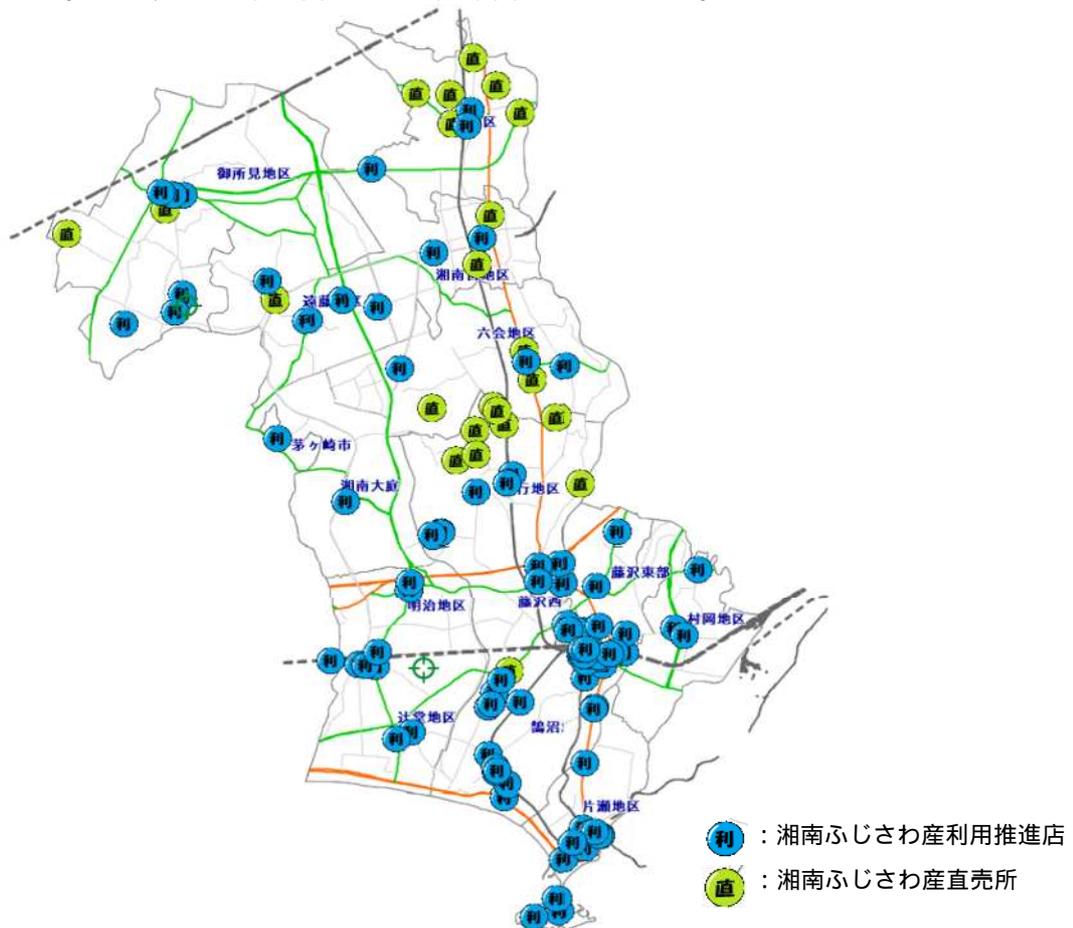


図 湘南ふじさわ産利用推進店及び農産物直売所の分布状況

農・商・工連携の推進

藤沢市地産地消推進計画もふまえ、西北部で産出される豊かな農産物を活用して、新たな特産品開発や観光・交流の促進など、農商工の連携を推進します。

特に、西北部全体のみどり豊かな地域環境を活かして、観光的な要素も取り入れながら、農業の活性化につながるまちの形成をめざします。

【考えられる取組】

農産物を活用した新しいブランドの開発支援

新たな特産加工品の開発や加工品生産の普及支援

遊休農地を活用した農業体験学習や環境学習の推進

花卉、植木、畜産のふれあい交流イベントなどによる農家と住民・来訪者との交流促進

先進事例：農・商・工連携の推進（桑の新品種の育成と新商品の開発）

創輝㈱、谷津農園、創価大学工学部環境共生工学科他、東京都八王子市が連携を図りながら、新品種の育成、新商品の開発、地域ブランドの形成に取り組んでおります。

○大学・農家・事業者のノウハウの結集

新品種誕生を機に、大学の知の財産、農家の栽培ノウハウ、及び事業者の加工技術が集まって、おいしい桑茶を商品化。地元商工会・金融機関・大学の連携で、加工・活用方法を開発（一部特許取得）

○飲食に適した新品種の育成、新商品の開発

既存の桑茶にない濃緑色で甘み・旨みのある品種の開発により、茶をはじめ加工食品等の用途に幅広く使用できる新品種「創輝」（平成 20 年 6 月 3 日品種登録）を育成。平成 17 年度から地元八王子市の農家で栽培（10a）。平成 20 年度から大学発ベンチャー企業が桑茶を加工・販売。

○八王子市の農業振興と「桑都 八王子」の地域ブランドを形成

取組は農商工等連携事業にも認定され、八王子市の農業振興と「桑都 八王子」の地域ブランドを形成。

○利益や雇用の創出

売上高は倍増し、雇用数は 2 名、桑葉の収穫量は 2 トン、栽培面積は 10 倍に増加。大学の技術シーズのビジネス化。農家にとって 栽培管理が容易で鳥獣被害を受けにくく、10a あたり 20 万円～30 万円程度の利益を実現（従来は農家の収益は無かった）。



図 桑園の様子

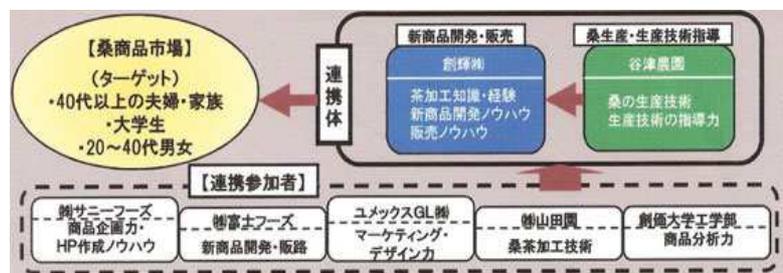


図 連携の構図

出典：農林水産省資料、創輝株式会社ホームページ

(4) 活力創造・文化・交流のまちづくり

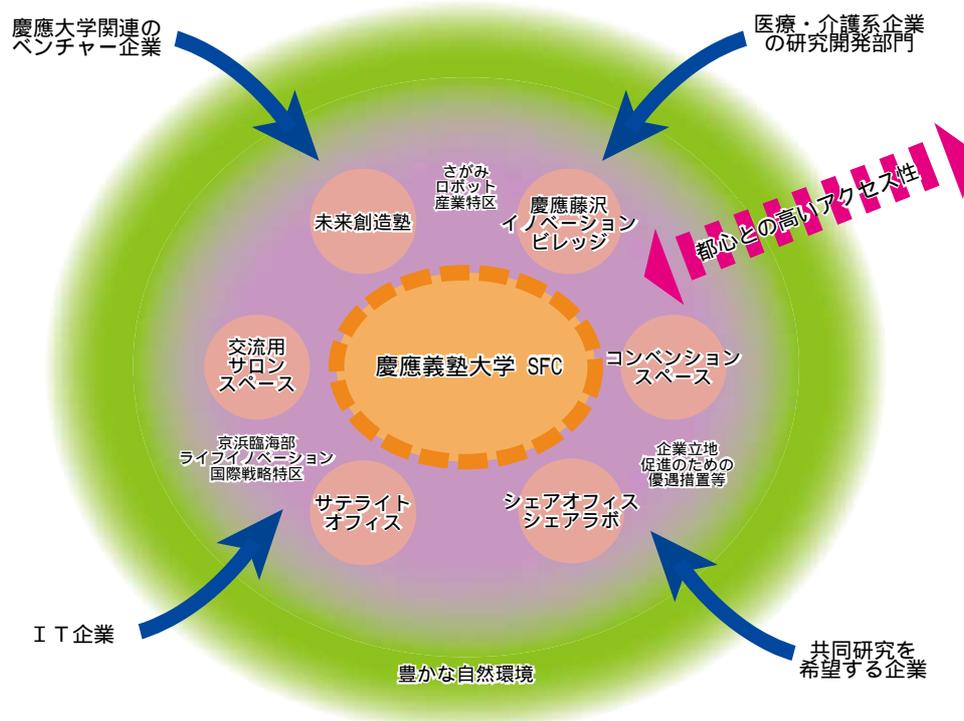
情報・環境・医療等の分野において先進・先端を行く慶應義塾大学SFCや、大学の知を活かしたベンチャー企業の育成施設である「慶應藤沢イノベーションビレッジ」が立地する当該地区においては、慶應義塾大学SFC等と連携する新たな産業や研究開発機能の立地が期待されます。また、大学の学術教育機能は、若い学生のものだけでなく、産業界の求めや定年を迎えた高齢者など成熟世代の知的欲求に応え、新しい展開をはかることも期待されます。

このように地区の強みを活かし、環境共生、健康・医療、農を活かすまちづくりを進めることで、人々の交流が生まれ、また新たな活力が創造されます。

さらに、健康と文化の森地区および周辺の豊かな自然資源や地域の文化・芸能活動を活用しながら、慶應義塾大学SFCの学術研究機能や文化的活動も積極的にまちづくりの中に取り込むことで、人々のつながりを強くするとともに、文化的で創造性のあるまちづくりをめざすことも重要です。

したがって、学術研究、産業創出、文化的活動を展開していくことにより、多様な人々が来訪・交流し、新しい「もの」「技術」「産業」「文化」などが創出・発信される地域となり、地域全体の活力が高まるまちをめざします。

慶應義塾大学SFCの持つ情報・環境・医療分野等の技術集積や学術研究機能の活用
文化的活動を積極的に取り入れた創造性のあるまちづくり



慶應義塾大学 SFC の技術集積や学術研究機能の活用

地域活力の増進 個性的で魅力的な地域像の創造
競争力の向上 多様な人々の来訪や交流

文化的活動を積極的に取り入れた創造性のあるまちづくり

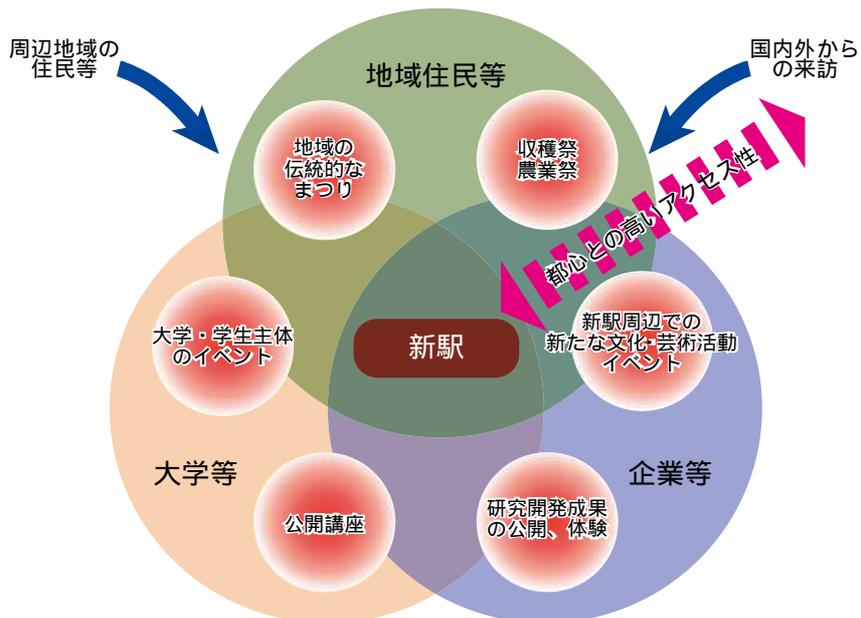


図 活力創造・文化・交流のまちづくりの方向性

慶應義塾大学 S F C の持つ情報・環境・医療分野等の技術集積や学術研究機能の活用

情報・環境・医療等の分野で高い技術を有する慶應義塾大学 S F C が立地する健康と文化の森地区は、いずみ野線が延伸することで、豊かな自然環境がありながらも、都心までのアクセスが高い地域(渋谷まで 56 分)となります。このような地区の優位性を背景に企業や研究開発機能の立地、集積を促進し、地区全体で研究開発や産業の競争力高めていくことをめざします。

【考えられる取組】

慶應義塾大学 S F C 等の研究機関と民間企業との連携や共同研究等の支援

「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略特区」や「さがみロボット産業特区」の指定をふまえた医療・介護系の研究開発機能の誘致を推進

慶應義塾大学 S F C 発のベンチャー企業等の立地を支援や育成

豊かな自然を取り込んだ職場環境の整備

- 慶應義塾大学 S F C との連携等を期待する研究開発施設やサテライトオフィスが立地、入居しやすい環境やインフラを整備(例: サロンスペース、シェア・オフィスなど)
- 企業の立地や進出を促進するためのインセンティブの検討(例: 税制優遇策など)
- 当該地区の企業で働く人や来訪者(居住者も)の活動や交流を支えるための商業施設等の誘導

広々としたみどりあふれる敷地に研究開発系施設等を立地
フットパスネットワークも形成し、地域住民に開放

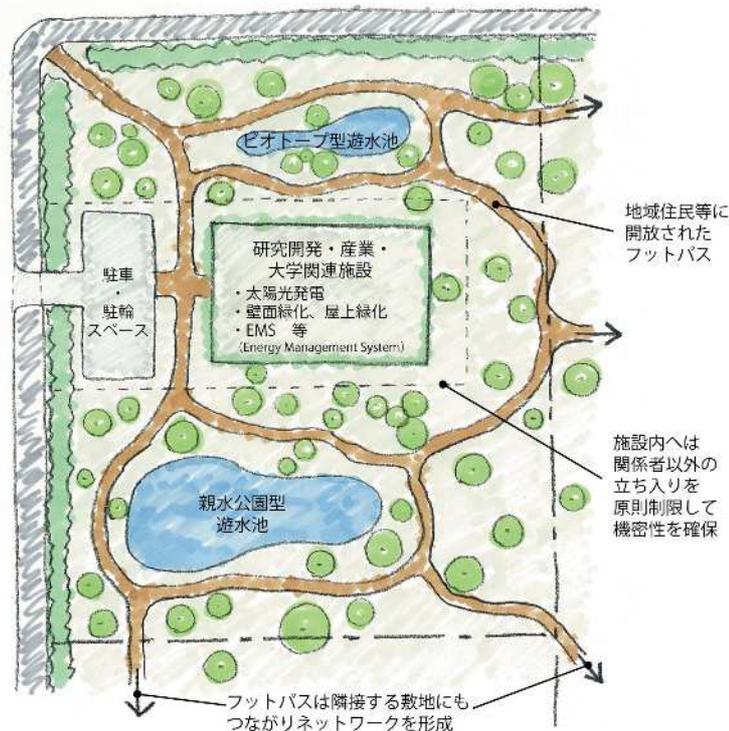


図 自然豊かな研究開発施設等の空間配置イメージ

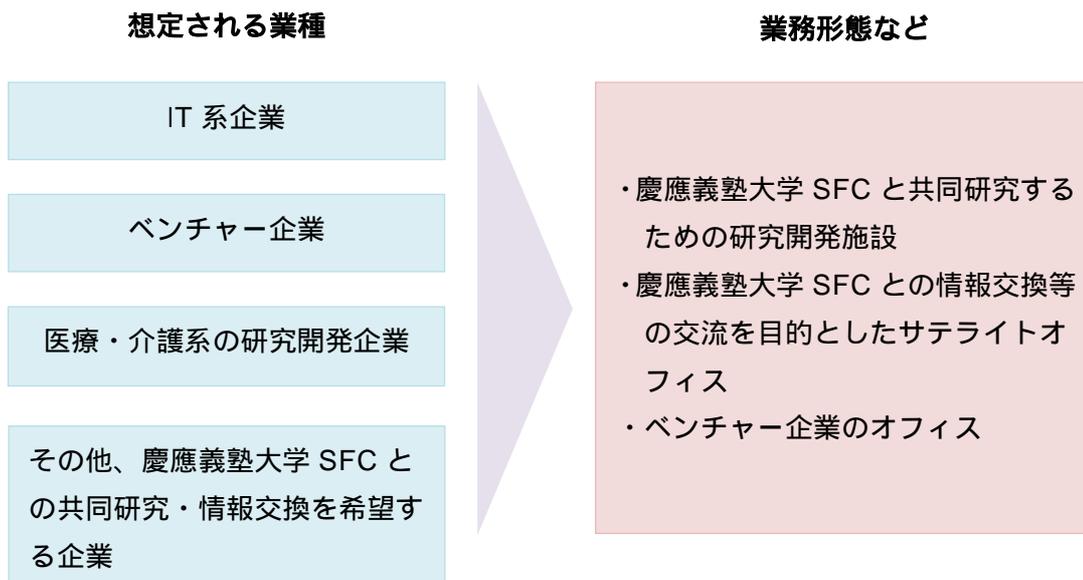


図 想定される業種や業務形態のイメージ



図 みどりあふれる研究開発施設のイメージ



図 シェアオフィスのイメージ

文化的活動を積極的に取り入れた創造性のあるまちづくり

健康と文化の森地区および周辺地域には、良好な自然資源のほかに、地域の祭りなどの地域資源も豊かであることから、市民や慶應義塾大学SFCの教職員、学生がこうした文化的な活動を支え、創造性のあるまちをめざします。

また、すでにある資源を活用するだけでなく、まちづくりの過程で新しい文化的・芸術的活動がおこなえる場や仕組みの創出もめざします。

【考えられる取組】

地域文化・地域芸能の活用

新しい文化的活動の推進

文化・芸術活動の仕組みづくり

地域文化・地域芸能の活用

文化的なまちづくりを進めるうえで、もともと西北部地域で行われている文化行事や芸能イベントを活用することが望めます。例えば、遠藤地区では「小出川彼岸花まつり」、「遠藤あじさいまつり」、「遠藤竹炭祭」という三大祭りがおこなわれております。このような地域のイベントを積極的に活用して地域外からの来訪者を増やして交流の場にするとともに、まちづくりによって新しく入ってくる人々との交流の場としていくことが考えられます。



図 小出川彼岸花まつり



図 遠藤あじさいまつり



図 遠藤竹炭祭

新しい文化活動の推進

まちづくりを進めるうえで、文化や芸術に関わる活動を行おうとする場合、その受け皿となる場を用意することが重要です。屋外でこうした活動を行う場合には、周辺住民の協力も必要となることから、地域全体でこうした活動を理解し、支えあう機運を醸成することも必要です。

さらには、地域で展開される活動が、新しい価値観や生活像を提供し、暮らしの豊かさを高めていくことができるように、学生や特定の芸術家だけの活動ではなく、地域全体の活動に盛り上げていくことが考えられます。

先進事例：あいちトリエンナーレ 2013

あいちトリエンナーレは、3年に一度開催される国際芸術祭で、2013年は名古屋市と岡崎市で開催されました。現代美術と舞台公演が同時に行われるのが、ほかの芸術祭にはない、あいちトリエンナーレの大きな特徴となっております。まちなかでアートを楽しみながら、日常生活ではあまり意識していなかった街の魅力にも気づく機会となることをめざしております。



図 一般公開されていない建築物を特別に公開するオープンアーキテクチャーの様子

2013年は東日本大震災後のアートを意識しつつ、世界各地で起きている社会の変動と共振しながら、国内外の先端的な現代美術、ダンスや演劇などのパフォーミングアーツ、オペラが紹介されました。

出典：あいちトリエンナーレ 2013 ホームページ

文化・芸術活動の仕組みづくり

さまざまな文化・芸術活動を展開し、多様な世代の人々に参加してもらうようにすることで、世代間を超えた交流が促進されることが期待されます。そのために、さまざまプログラムを用意しておくとともに、人と人、活動と活動を結びつけることで自発的な新しい活動が展開されることを促すように、文化・芸術活動の展開を支えるコーディネーターの育成をおこなうなど、文化・芸術活動の仕組みづくりが考えられます。

先進事例：横浜市文化芸術教育プラットフォーム

子どもたちの創造力を育む横浜市芸術文化教育プログラムを推進していくための連携の仕組みとして、横浜市文化芸術教育プラットフォームは実施されております。

より多くの子どもたちにプログラムを届けるために、学校、アーティスト、文化団体、NPO、文化施設、企業、地域団体等のさまざまな主体が参加・協力しております。ふだん文化施設や芸術団体で活動しているスタッフがコーディネーターとして授業づくりを支援しており、9年間にのべ460校の学校で6万人を超える児童・生徒たちを対象に実施されております。

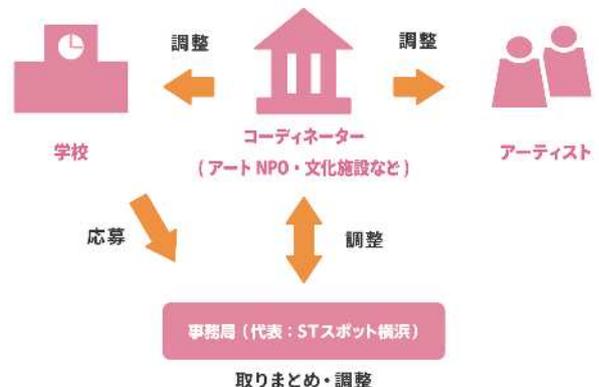


図 コーディネーター派遣の流れ

出典：横浜市芸術文化教育プラットフォームホームページより (<http://y-platform.org/index.html>)